万国の労働者団結せよ！　万国の労働者と被抑圧民族団結せよ！

（毎月２回１日・15日発行）1969年12月20日第３種郵便物認可

2016-8-1・15
No.985
400円

思想運動

活動家集団　思想運動
発行・小川町企画　〒113-0033 東京都文京区本郷３の38の10さかえビル２階　☎03・3818・6671 FAX03・3818・3199（郵便振替）00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080・4700・6461
HP http://www.shiso-undo.jp/
購読料：年間6,000円　半年3,000円（送料共）

ケーテ - コルヴィッツ＜母たち＞(1919年)

息子たちの遺書

石川逸子

いちど
確かめてみたい　と思っていたのだ
夕立のあとの空の青さを
遊園地のなかには
どんなに混んできても誰ひとり腰かけない
一つのブランコがあったから
すばしこく子供たちが逃げていってしまっても
母親はなぜか不安だった
そっと見張っていようと思い
雨のなかに佇んで風邪をひいたりした
夏の街や新聞紙のなかを
とおせみは飛びちがい
やさしく交尾し
黒い兵舎の窓からは
どんなあらわな叫びもきこえなかったけれど
そのころ
幾人かの若い特攻隊員は
一ヶ月後の死を予告されていたのだ
それから一ヶ月
大輪の朝顔はなにごともないように
まいあさ
露をふくんで花ひらき
やがてアメリカ人の手には明るい水差しが
ふっくらした手の日本の商人と軍人には
豊かな算盤がのこされた
とはいえ
顔をおおって
飛行場から帰ってきた
母親の八月十五日には
いったいなにが
なにがのこされたというのだろう
トタン屋根に赤い陽はさし
すべての荒廃のなかで
向日葵は太陽と共にゆるやかに
まわりはじめる
でもあの息子たち
ふっくらした手の商人と軍人の詭計のために
未明の空港を飛びたった
あの息子たち
は　もう帰ってきはしない
夏の雲をすっかり払い去った
空のなかで
レモンのようにするどく
血を垂らしている
あの息子たちの遺書を見給え

（『新編　石川逸子詩集』より、初出は一九五六年『日に三度の誓い』）

2016年８月１・15日合併号　おもな内容

＜沖縄＞沖縄への暴圧全面化する安倍政権　高江工事再開糾弾 …… ２～３面
＜政治＞“現場”をどこに見出すか―「改憲派３分の２」状況との闘い ……４面
＜連載＞日本の戦後補償―東南アジアの歴史を通じて考える（倉沢愛子）…５面
＜政治＞米国のリバランス戦略と安倍政権の狙い（浅井基文）……６面
＜政治＞「君が代」不起立裁判で大阪地裁が不当判決（辻谷博子）……７面
＜ＨＯＷＳ＞『忘却のための「和解」』の著者・鄭栄桓氏を囲んで討論　８～９面
＜国際＞トルコの事態に関するトルコ共産党とギリシャ共産党の声明 ……10面
＜文化＞文芸時評＝『ジニのパズル』（崔実著）をめぐって ……11面